

## 編集後記

保健医療学雑誌 5 巻 2 号をお届けいたします。今号には、Original Article 1 編，原著論文 1 編，総説 1 編，資料 1 編が掲載されております。

Ohsugi 論文では身体活動と前頭前野の活性の関係性と認知機能への影響を検証しており，近年本邦でも問題視されている認知症の予防の一助となると思っています。

岩井論文では回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の入院期間が長期化する要因を調査しております。結果として、独居であること，回復期リハビリテーション入院時の FIM スコアが低値の場合が最も入院期間の長期化に関連していたことが示されております。これらの要因をもとに、回復期リハビリテーション病棟での取り組みについて一つの考察を導きだす事が可能になると思います。

総説として福井論文が能動義手についての現状と今後の課題を示しております。能動義手についてまだまだ研究が不足している事が明らかにされ，今後の研究が期待される分野であることを示しております。

最後に，資料として岡本論文はパーキンソン病に対する運動療法についてまとめております。パーキンソン病に対する運動療法はそのエビデンスが確立されつつあり，ますますリハビリテーションにおいてその関わりが重要なことを示しております。

2014 年の夏は大雨の影響もあり夏らしい夏もなく季節がすすみ、気がつけば秋晴れの青空に羊雲がぼかりぼかりと浮かんでおります。保健医療学雑誌は今年から J-STAGE, 医学中央雑誌, メディカルオンラインといったデータベースに登録し，多くの方々に検索・閲覧いただけるようになりました。今後も保健医療分野の発展のために，保健医療学雑誌は情報を発信し続けてまいりますので皆様からの多くの投稿をお待ちしております。

編集実務担当

榎野 浩司（関西福祉科学大学）